

とうきょうすくわくプログラム

活動報告

2025年度 シエル保育園東中野
4.5歳児クラス

泡への興味の広がりからはじまった活動①

1.活動テーマ

テーマ：泡はどうしたらできる？

設定理由：

散歩先の砂場で遊んでいる際、泥の中に泡ができていることに気付く姿があった。水がなくなった後も泡だけが残っている様子に子どもたちは不思議さを感じ、「どうして泡ができるのか」について興味を持ったことから、サークルタイムで話し合いを行い、仮説を立てる探究活動につなげた。

2.活動スケジュール

- ・散歩先の砂場で遊ぶ
- ・サークルタイムで砂場遊びを振り返る
- ・泡がどのようにしてできるのか話し合い、仮説を立てる



3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ホワイトボード
- ・マーカー
- ・子どもたちの意見を整理するための記録用紙

サークルタイムでは、子どもたちが見つけた「泡」について思い出しながら話し合えるようにし、出てきた意見をホワイトボードに書き出して共有できる環境を整えた



4.探求活動の実践

活動内容：

「どうしたら泡ができるのか？」をテーマに、子どもたちの発想を聞き取りながらホワイトボードに書き出し、考えを共有した。

子どもの姿・声、保育者とは関わり：

- ・「水に石を落としたら泡ができるんじゃない？」
- ・「ぐるぐるかき混ぜたらできるかも」

など、泡ができる理由について様々な意見が出され、子どもたちなりに考えを広げていく姿が見られた。



5.振り返り

話し合いの中で、

- ・水に何かを混ぜてできる泡
- ・水に石を落とした時にできる気泡

という2つの泡の捉え方が子どもたちの中から生まれていた。この話し合いをきっかけに、「本当に泡ができるのか試してみたい」という気持ちが高まり、実際に泡作りを行う実験遊びへとつながった。

とうきょうすくわくプログラム

活動報告

2025年度 シエル保育園東中野
4.5歳児クラス

泡への興味の広がりからはじまった活動②

1.活動テーマ

テーマ：泡を作ってみよう

設定理由：

砂遊び中に泥水が泡立っていることを発見、泡への興味が広がった（①参照）今回は、泡ができる仕組みを探るため実験遊びを行う。

2.活動スケジュール

- ・サークルタイムで泡をテーマに話し合い
- ・水に入れる素材を用意
- ・泡作りの実験遊びを実施

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・シャンプー/固形せっけん/洗剤/麦茶
- ・ボール、泡立て器、ホイッパー
- ・カップ
- ・シェイカー

4.探求活動の実践

活動内容：

- ・水に素材を入れて泡立てる
- ・麦茶を泡立てる
- ・完成した泡を触る

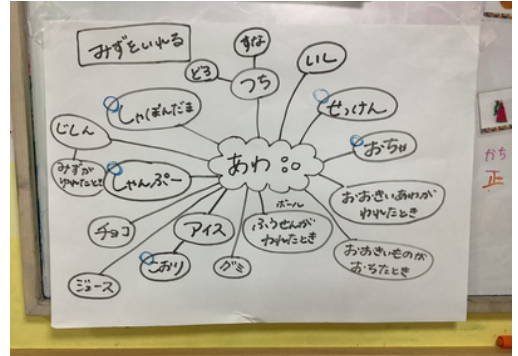
子どもの姿・声、保育者とは関わり：

- ・水だけでは泡ができないことに気がつく
- ・「麦茶を泡立てて飲むとコーヒーみたい」
- ・「水だったのにクリームみたいにになった！」

5.振り返り

・砂遊びの中で、砂の上に残る泡に興味を持ったことが今回の実験遊びへとつながった。子どもたちの何気ない気づきが、探究へと発展している様子が見られた。

・泡遊びでは、約1時間じっくりと向き合いながら観察や試行を繰り返していた。活動後の振り返りでは、水だけでは泡ができにくいことや、水は丸くまとまろうとする性質があり、素材を加えることで泡立ちやすくなることを知った。



活動報告

花びらから色が生まれる不思議に出会い、試す遊びへ広がった活動

1.活動テーマ

テーマ：花びらを使った色水遊び

設定理由：

花びらで色水が作れることに気付いた子どもたちの「もっときれいにしたい」という思いをきっかけに、色の違いや変化への興味を深めるため。

2.活動スケジュール

- ・散歩先で花びらを集める。
- ・散歩先や持ち帰った花びらで色水作りを行う。

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・すり鉢、すりこぎ、茶漉し
- ・ビニール袋
- ・透明カップ



4.探求活動の実践

活動内容：

- ・花びらを集め、すり潰して色水を作る。
- ・カップに移し色の違いに気づく。

子どもの姿・声、保育者とは関わり：

- ・「ピンクの花びらで作ったらピンクになった」
- ・色水を作るだけでなく匂いを嗅ぐ
- ・違う種類の花びらを集め、繰り返し色水を作る



5.振り返り

・完成した色水を「とっておきたい」という声があがり、遊びがその場で終わるのではなく、子どもたちの中で大切なものとして残っていることを感じた。活動が次への楽しみにつながっている様子が見られた。

・思い描いた色に近づけようと工夫する子、混ぜること自体を楽しむ子など姿はさまざまで、一人ひとりの感じ方や楽しみ方の違いが表れていた。

活動報告

色つき泡を作ってみよう！

1.活動テーマ

テーマ：泡にも色はつくの？

設定理由：

色水遊びの中で「泡は色がつくのかな？」という声が上がったことをきっかけに設定した。実際に泡や色水を使い、混ぜたり重ねたりしながら色の変化を楽しめるようにしたいと考えた。

2.活動スケジュール

- ・ハンドソープに食紅を混ぜて色付きの泡を作る
- ・色水や泡を混ぜて変化を試す
- ・気付いたことを伝え合う

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ハンドソープ ・食紅 ・水
- ・透明カップ ・プッシュボトル
- ・スプーン

4.探求活動の実践

活動内容：

ハンドソープに食紅を混ぜて色付きの泡を作り、色水と合わせて混ぜたり、上に乗せたりして変化を楽しんだ。

子どもの姿・声、保育者とは関わり：

食紅を自分たちで混ぜながら、色が変わっていく様子を楽しむ姿が見られた。色水の上に泡を乗せた際には「ビールみたい！」と見立てる姿もあった。保育者は「泡にも色がついたね」「混ぜるとどうなるかな？」と問いかけ、気付きを引き出した。

5.振り返り

子どもの疑問から始まった活動であり、実際に試すことで泡にも色がつくことや、混ぜ方によって見え方が変わることを発見していた。今後も子どもの何気ない一言を大切に、探究へとつなげていきたい。



活動報告

光と水のふしぎ

1.活動テーマ

テーマ：光に当てるとどう見える？

設定理由：

小学校の展覧会で見た光を使った作品に興味を持ち、「やってみたい」という声が上がったことから設定した。
自分たちでも再現しながら、光の当たり方や素材の違いによる見え方の変化に気付いてほしいと考えた。

2.活動スケジュール

- ・使われていた素材を思い出し、準備をする
- ・ライトテーブルで光の見え方を観察する
- ・素材や光の当て方を変えて試す
- ・気付いたことを共有する



3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ライトテーブル・プラスチックコップ
- ・カラーフィルム・ペットボトル・水
- ・ラメ・ダンボール

4.探求活動の実践

活動内容：

ライトテーブルを使い、水やラメ入りのペットボトル、カラーフィルムを付けたコップなどを光に当て、見え方の違いを試した。さらに、ダンボールを被せて周囲の光を抑え、明るさの違いによる変化も比べた。

子どもの姿・声、保育者とは関わり：

ラメを入れた際には「きらきらしててかわいい！」と喜ぶ姿が見られた。カラーフィルムの付け方による色の違いに気付いたり、ダンボールを使った際に「こっちのほうがキラキラして見えるよ！」と変化を感じ取ったりしていた。保育者は問いかけを通して、条件を変えて比べる姿を支えた。

5.振り返り

展覧会での体験をもとに再現しようとする姿が見られ、光の当たり方や素材の違いによる変化に気付く様子があった。比較しながら試す中で、見え方の違いを自分なりに発見していた。今後も興味を出発点にした探究を大切にしていきたい。

活動報告

水性ペンを使用した色水作りと光遊び

1.活動テーマ

テーマ：色水と光

設定理由：

素材遊びの中で水性ペンが水に溶けることに気付いた子どもたちの発見をきっかけに、色水作りや光遊びへと活動を発展させ、色の変化や美しさを楽しむことをねらいとした。

2.活動スケジュール

- ・素材遊びの中で水性ペンと油性ペンの違いに気付く
- ・水性ペンをキッチンペーパーに染み込ませ、水に溶かして色水を作る
- ・様々な色の組み合わせを試しながら色水作りを楽しむ
- ・完成した色水をペットボトルに入れる
- ・ライトテーブルに置き、光に透かして色の美しさや変化を観察する



わくわくワゴン

子どもたちが自由に試したり組み合わせたりできるように、素材をワゴンに整理して配置し、必要なものを自分で選んで取り出せる環境を整えた。

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・水性ペン
- ・キッチンペーパー
- ・ペットボトル
- ・ライトテーブル

4.探求活動の実践

活動内容：

水性ペンをキッチンペーパーに染み込ませて水に入れると色が広がることに気づき、色水作りが始まった。「きれい」「違う色も作りたい」と様々な色を試し、透明感のある色水作りを楽しむ姿が見られた。完成した色水をライトテーブルに置くと、光によって色がより鮮やかに見えることに気づき、色の変化を観察していた。



子どもの姿・声、保育者とは関わり：

- ・「絵の具みたいに濁らないね」「きれいな色！」と透明な色水の美しさに気付く姿があった。
- ・「この色とこの色を混ぜたらどうなるかな？」と色の組み合わせを試す姿が見られた。
- ・保育者は子どもたちの気づきや発見を受け止めながら、「光に当てたらどう見えるかな？」など問いかけを行い、活動が広がるよう関わった。

5.振り返り

子どもたちの身近な素材遊びから生まれた気づきが、色水作りや光遊びへと発展していく様子が見られた。水性ペンの性質を体験的に理解するだけでなく、透明な色の美しさや色の組み合わせを試す楽しさを感じる姿があった。

今後も子どもたちの興味や発見を大切にしながら、素材や環境を工夫し、探究的な遊びが広がるよう保育を展開していきたい。



活動報告

いろがまざった！ふしぎな色水あそび

1.活動テーマ

テーマ：色水遊びを通して、
色の変化を楽しみながら表現する。



設定理由：

3歳児は色の変化に興味を持ち、自分で試すことを楽しめる時期である。
色水遊びでの混色体験を製作活動へ発展させ、
にじみの面白さや偶然できる模様を楽しめるようにしたいと考え設定した。

2.活動スケジュール

色水遊び 色の変化を共有
コーヒーフィルターに色水を垂らし、
にじみを楽しむ。乾燥・完成を見る

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

食紅、水、プッシュボトル、ボウル、カップ
スポイト、製氷皿、フレンチボトル、トレイ
コーヒーフィルター、雑巾
色水遊び：テラス 製作活動：3歳保育室内



4.探求活動の実践

活動内容：

- ・子どもたちは好きな色水を選び、混ぜることを楽しんだ。
- ・紙に色水を垂らして、しみながら色が変化する様子に気づいた

子どもの姿・声、保育者とは関わり：

- ・「ジュースみたい」と見立てて遊んだ。水を足して薄まる様子を確かめる子もいた。
- ・保育者は「何色と何色を混ぜたの？」と問いかけ、気づきを言葉にできるようにした。
- ・「綺麗だね」と共感し合えるように関わった。
- ・偶然できた模様も肯定し、一人ひとりの表現を大切にした。



5.振り返り

- ・色の変化に驚きや喜びを感じ、意欲的に繰り返し試す姿が見られた。
- ・色水遊びでの発見が製作活動への意欲につながり、色の変化やにじみの広がりを楽しむ姿が見られた。遊びから表現へ繋げることで、子どもの探究心をより深める機会となった。

活動報告

色や形の変化のおもしろさを感じた氷遊び

1.活動テーマ

テーマ：色水遊びから発展した氷遊び

設定理由：色水遊びを行った際、「ジュースみたいだね」と声があがり、氷を用意したら遊びが発展すると感じたため。氷の冷たさや溶ける様子を楽しんでほしいため



2.活動スケジュール

- ・製氷ケースやジップロックで氷を作る
- ・色水を作る



3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

製氷ケース、ジップロック、食紅、プラスチック製のコップ、スプーン、タライ、机



4.探求活動の実践

活動内容

- ・コップに色水と氷を入れジュースを作る
- ・色水を混ぜると色が変わることに気付く
- ・水に色の着いた氷をいれ色が変わる様子に気付く
- ・氷の冷たさを感じる
- ・氷が溶けていく様子を観察する

子どもの姿・声、保育者とは関わり

- ・氷が溶けると「氷がなくなっちゃった～」と探す様子があった
- ・氷と色水をいれジュース屋さんを開き、店員とお客さんに分かれ遊んでいた
- ・冷たいね、溶けちゃったねと気持ちに共感し言葉にした

5.振り返り

- ・氷の冷たさに触れたり、溶けていく様子を観察したりしながら、変化を楽しむ姿が見られた。
- ・ジュース作りをきっかけに子ども主体でお店屋さんごっこが始まった。友だちと関わりながらジュースの種類や役割を自分たちで決めていく姿があり、主体性や協同性の育ちが感じられた。

活動報告

氷との出会いで広がる子どもの興味

1.活動テーマ

テーマ：水遊びの延長線上で行う氷遊び

設定理由：水とはまた違った感触や、手で触れることで再び溶けていく様子などを実際に感じることで、水の不思議さを間近で楽しみ味わえる活動に繋がった為。



2.活動スケジュール

- ・製氷ケースや、長方形の袋に水を入れて冷凍庫で固める。
- ・水遊び専用のたらいやカップなどを用意する。

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・製氷ケース
- ・長方形のビニール袋
- ・たらい、計量カップ、ペットボトルなどの入れ物

4.探求活動の実践

活動内容：

- ・水遊びの際に水は出さず、保育者が用意した氷を見せ、実際に触れている姿を見せて安心して遊べるようにしていく。
- ・個々のペースで氷に触れ、感触や冷たさを味わう。



子どもの姿・声、保育者とは関わり：

- ・保育者の言葉に対し、子ども達も「つめたい」「ツルツル」と話していた。
- ・氷をカップなどの容器に入れたり両手で握って持ち上げていた。
- ・水を入れた際に溶けて小さくなっていく様子にも興味を持ち、じっと様子を見ていた。

5.振り返り

・初めて見る氷に興味を示しながらも、冷たさへの戸惑いから触れることに抵抗がある様子が見られた。そのため、保育者が目の前で氷に触れて楽しむ姿を示すことで安心感につながり、子どもたちも少しずつ自ら触れようとする姿が見られるようになった。

・保育者が「お水の方があたたかいと氷が小さくなる」と簡単な言葉で伝えると、「なくなった」「ちいさくなった」など変化に気づく子もいた。

・カップに氷と水を入れてジュースに見立て、保育者に振る舞うなど、見立て遊びに発展する姿が見られた。感触遊びから見立て遊びへと遊びが広がる様子が見られた。



活動報告

手洗いから水に触れる経験をし、そこから遊びに繋がっていった姿

1.活動テーマ

テーマ：水遊び

設定理由：毎日の手洗いの経験から様々な水遊びに発展できると感じたから。

2.活動スケジュール

- ・水遊び→色水遊び→氷遊び
- ・寒天遊び→色のついた寒天遊び

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・タライ、水を掬ったりかき混ぜる玩具
- ・氷、食紅
- ・寒天粉



4.探求活動の実践

活動内容：

- ・まずは水自体の感触や色の観察。袋に入れた水のなんともいえない感触を楽しむ。

子どもの姿・声、保育者とは関わり：

- ・水を触りながら「きゃっ」や「楽しい」の声が出ていた。保育者が「気持ちいいね」と声をかけたり一緒に感触遊びをすることで気持ちの共有を楽しんでいた。

5.振り返り

- ・すくわくで水に焦点を当てて感触遊びを楽しみ水の可能性を導き出すことができた。普段何気なく触ることが多い水で長い時間集中して一つの遊びに取り組むことができていた。形を変えた違った水遊びにも挑戦していきたいと感じた。